

第12回日本在宅看護学会学術集会 在宅看護のサステナビリティ

日時 11月19日(土)・20日(日)

会場 野宮サンプラザ 13~14階(東京都中野区)

プログラム

【会長講演】

「在宅看護のサステナビリティ」川添高志(ケアプロ株式会社)

【パネルディスカッション・シンポジウム】

- 「8050/9060時代に求められる在宅看護——複合的な課題を持つ家庭に対して、在宅看護は何かができるのか?」和氣純子(東京都立大学人文社会学部人間社会学科)・酒井直人(中野区区长)・梅原悦子(中野区中野地域包括支援センター)・立石愛(中野区中部すこやか福祉センター)・福元さくら(中野区中部すこやか福祉センター)・藤井多希子(中野区地域支えあい推進部)
- 「地域包括ケアの進化を目指す働き方のサステナビリティ」濱田安岐子(NPO法人看護職キャリアサポート)・丸山充帆(株式会社アオアキア)・田母神裕美(公益社団法人日本看護協会)・藤野泰平(株式会社デザインケアみんなのかかりつけ訪問看護ステーション)
- 「在宅医療の安全と危機管理——暴言・暴力に立ち向かう事業所の運営」高村浩(高村浩法律事務所)・野々内美加(Langley Mental Health Substance Use Program Fraser Health)・村田直子(公益社団法人兵庫県看護協会)・原子英樹(株式会社円グループ)
- 「訪問看護の質——評価から質改善へ」藤井麻耶(厚生労働省老健局老人保健課)・山本則子(東京大学大学院医学系研究科)・天野博(AGO株式会社みのり訪問看護ステーション)・大橋奈美(医療法人ハートフリーやすらぎ)・吉原由美子(一般社団法人全国訪問看護事業協会)
- 「在宅看護のサステナビリティを高めるためのテクノロジー」富樫千代美(鶴岡市立荘内病院)・遊間和子(株式会社国際社会経済研究所)・亀井智子(聖路加国際大学大学院看護学研究科)・小室貴之(株式会社楓の風)
- 「地域の実情や工夫から考える——支え合いながら暮らし続けるための地域のサステナビリティ」本田和也(独立行政法人国立病院機構長崎医療センター)・柏木久美子(福島県立医科大学会津医療センター奥会津在宅医療センター)
- 「組織戦略から見る経営のサステナビリティ」中島朋子(株式会社ケアーズ東久留米白十字訪問看護ステーション)・藤野泰平(株式会社デザインケアみんなのかかりつけ訪問看護ステーション)・大串優太(株式会社Footage)・金坂宇将(ケアプロ株式会社)

- 「2022年カリキュラム改定 地域・在宅看護論で何を変えるのか?——どこを目指して、何を教えるか、看護基礎教育に何を求めるのか」富安真理(静岡県立大学大学院看護学研究科)・村山浩代(神奈川県立平塚看護大学校)・竹森志穂(聖路加国際大学大学院看護学研究科)・服部絵美(株式会社ケアーズ白十字訪問看護ステーション)・樋口秋緒(社会医療法人北農会恵み野訪問看護ステーション「はあと」)・柏木聖代(東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科)・山田雅子(聖路加国際大学大学院看護学研究科)
- 「在宅看護の実践をサステナブルにする機能強化型訪問看護ステーション」福井小紀子(東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科)・吉澤環(南砺市民病院)・今井めぐみ(社会福祉法人世田谷区社会福祉事業団訪問看護ステーションけやき)
- 「在宅看護の事業継続計画(BCP)の重要性と展望」菅野太郎(東京大学大学院工学系研究科)・木村浩美(社会医療法人寿量会ホームケアサポートセンター)・川口奏子(在宅看護研究センター附属訪問看護ステーション)・酒井美知子(メディカル・ハンブ訪問看護ステーション)・石田千絵(日本赤十字看護大学大学院看護学研究科)

【教育講演】

- 「質的研究から捉える現象の世界——看護における質的研究のこれから」西村ユミ(東京都立大学人間健康科学研究科)

【情報交換会】

- 「訪問看護事業承継ガイドラインと事業承継事例」坪田康佑(一般社団法人医療振興会)・高丸慶(一般社団法人訪問看護支援協会)
- 「新卒訪問看護師についてみんなの関心あるテーマで話し合おう!——きらきら訪問ナース研究会」山田雅子(聖路加国際大学大学院看護学研究科)・佐藤直子(東京ひかりナースステーション)

【市民公開講座】

- 「全ての人がその人らしい人生を——分身ロボットカフェ『DAWN』とみかんぐみの紹介」

参加費 会員10000円、非会員12000円、大学院生3000円、学生1000円 ※オンライン参加可能

第12回日本在宅看護学会学術集会運営委員会(ケアプロ株式会社在宅医療事業部内)

〒164-0011 東京都中野区中央4-25-14 中央ハウスA2
ウェブサイト <https://zaitakukango12th.com/>



サブカルチャーの聖地・中野ブロードウェイ



会場から徒歩5分の中野セントラルパーク

第12回日本在宅看護学会 学術集会を開催します！

学術集会長／ケアプロ株式会社代表取締役
川添高志

第12回日本在宅看護学会学術集会を11月19日(土)・20日(日)に開催します(会場＝中野サンプラザ、東京都中野区)。感染状況に応じてオンライン参加を中心とした学術集会に切り替える準備はしていますが、現時点では現地およびオンラインによるハイブリッド方式での開催(現地参加600人、オンライン参加400人の見込み)を予定しており、現地で多くの方々とお会いできればと考えています。

コロナを超え、持続可能性を高めるために

今学術集会のテーマは「在宅看護のサステナビリティ」です。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、訪問看護を継続させる難しさに直面した訪問看護ステーションもあったのではないのでしょうか。今や「サステナビリティ(持続可能性)」は、さまざまな領域で共通の課題です。皆さんも、気候変動問題やエネルギー問題、食料問題などを通して、SDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)が注目されているのはご存知のことだと思います。

日本の喫緊の課題は何でしょうか。例えば、人口減少や少子高齢化、社会保障費増大などが挙げられます。在宅看護は、これらの変化に伴う社会の持続可能性を支えるために不可欠であるの言うまでもありません。

感じて、考えて、行動に移す

一方で、在宅看護自体もさまざまな課題を抱えているのが実情です。「新卒や子育て、プラチナナース等のキャリアの持続可能性」「離島や過疎地でのサービスの持続可能性」「大規模化や後継者育成、災害といった事業の持続可能性」「病院と在宅での連携面での持続可能性」「介護離職やヤングケアラーの就業や就学の持続可能性」「社会保障制度自体の持続可能性」「ナース・プラクティショナー(仮称)等の時代にあった資格制度の持続可能性」――。論点を挙げればきりがありません。



そこで本学術集会では、在宅看護のサステナビリティに関して、感じて、考えて、行動に移していくための演題を企画しました(プログラムは別表の通り)。市民公開講座においては、遠隔操作でロボットを動かしてカフェ店員として働いている当事者の方々に登壇いただきます。急激な社会変化に対応していけるよう、本学術集会でさまざまな最新の知見や人的なネットワークを提供いたします。

会場の中野サンプラザは今年、50周年を迎える施設です。しかし来年に閉館され、「NAKANO サンプラザシティ」へと再開発されることが決まっています。そのすぐ近くには、古きよき趣きを残しながらも独自の発達を続けるサブカルチャーの聖地「中野ブロードウェイ」があり、一方で、警察大学校(旧・陸軍中野学校)跡地を再開発して生まれた「四季の森公園」や、商業施設や大学、オフィス等が入った「中野セントラルパーク」といった近代的な空間があります。

開催地の中野は時代とともに進化する街であり、若い世代から高齢者、はたまた海外の方々までを惹きつけ、人口密度が高いままに多様性を包摂する街です。そのような地で議論を交わし、在宅看護のサステナビリティを高める契機にしていけたらと思っています。